

## 第17回 DAAS運営委員会 議事要旨(案)

1. 日 時：2011年5月20日(金) 午前10時～午後12時
2. 場 所：星陵会館 3階 3A会議室
3. 出席者 敬称略 順不同  
運営委員長：三塩(日本設計)  
委 員：今倉委員(日本建築業連合会)、有馬委員、渡辺委員(積水ハウス)、  
本多委員(山下設計)、竺委員(日本建築学会)、兼松委員(日本建築家協会)、  
早川委員代理 安生暁氏(日建設計)、鈴木委員、早川委員(日本建築士会連合会)  
事 務 局：中田(宮城大学)、亀山、武藤
4. 配布資料：  
資料 1 DAASの『UIA2011東京大会』での活動並びに第6期活動展開について  
資料 2 表彰作品資料収蔵事業についての報告  
資料 3 デジタル卒業設計大賞懇親会報告  
参考資料 DAAS NOW これまでの活動と今後  
第5期(2010-2011年度)事業計画業務方針(第16回運営委員会提出資料)

## 5. 議事：

### ■検討事項

#### [議案1] UIA2011東京大会並びに第6期以降の活動についての検討

- 資料1並びに参考資料に基づき、UIA2011TOKYOにむけて、DAASで制作する会場での展示コンテンツ、シンポジウム等について、事務局より説明を行い、各委員からの意見を求めた。

#### UIA 迄の制作コンテンツ要点

- 東日本大震災の被災地の資料収蔵を考えている。
- 未来をどう創るか未来にどう繋げるかのビジョンが被災地の復興に必要となる。そのため、現状の記録や、それぞれの町や村で伝承されてきた言葉の収録が必要となると考えている。
- 例としては、南三陸町などの被災地の位置情報を付加したデジタル写真の収蔵。各都市に伝承されてきた言葉などの音声情報の収録(各街の年長者のインタビュー)など
- 宮城大学、他大学との連携を考えていきたい。

#### UIA 大会会場でのシンポジウム等要点

➤ DAAS の収蔵作品について、国際フォーラムのロビーで、リレー方式の対談を行う。また、その状況を配信しながら DAAS-Web サイトの新規コンテンツとしてリアルタイムでブースを設置し掲載する。

#### 第 6 期以降のコンテンツ制作について

➤ 現在のコンテンツと切り分けをした「投稿によるコンテンツ」を可能としたい。

#### 【本議事要録にて事務局(宮城大学中田氏からの進捗報告)追記】

○地域の人たちの肉声を録音し、それをアーカイブ化する作業というプロジェクトについてそのサンプル製作に取り組む段階となっており、バイノーラル録音の技術を使い、位置情報、時間情報を合わせて今後ネット上でも再生が可能なものをつくる。サンプル製作は宮城大学、大学院の学生がテスト録音を行う予定。(※宮城大学が被災地にて行うワークショップで現地を訪問する予定。インタビュー相手は相談中)

サンプルができましたら皆さんにお聴きいただけたらと思います。

○音声データアーカイブの外部公開 (UIA 東京 2011 でのデモンストレーション)

首都大学東京の渡邊英徳先生のご協力もいただきつつ、グーグルアース上にデジタルデータを配置し、位置情報、時間情報などをそえて閲覧できるインターフェースを考えている。

#### 【以下、各コンテンツについての意見等】

(有馬委員) 被災地の記録については、「都市・景観・デザイン」という軸をぶらさないことが大事であると考え。マスメディア、テレビなどで報道されていることと同様になっては意味がない。

(兼松委員) DAASで収蔵された作品の現況のチェックはどのようになっているだろうか。現在のところ、建築学会, JIA、文化庁の連携によって、登録文化財、指定文化財などの確認は進められているがそれ以外の建物の現況については調査が進んでいない。宮城大学等との連携ができるのであれば、すべての状況を確認するのは難しいとしても、可能な範囲で(DAASに収録された建築の)現況調査も行ってはどうか。DAASの写真コンテンツは「竣工当時」の写真という制限があるのか。ないのであれば、現在の写真と撮影日などを記録する必要があるのではないだろうか。その後改築されてしまい、状況を確認するものがなくなってしまうということもある。

(事務局) 現在、被災地では調査もできていない状態であるが、活動として資料保全等についても宮城大学だけでなく「外部への働きかけ」ということも含めて呼びかけを行えるのではないかと考えている。

(兼松委員) コンテンツの自由投稿という形では難しいのではないかと、事務局での確認が必要となるのではないだろうか。

(事務局)事務局でのフィルターをかけたものとしたと考えている。DAASのウェブサイト上では、現況について投稿ができる機能がついている。コンテンツ制作については、事務局からもメールなどで状況報告をしながら進めたいと考えている。第6期はこれまでの補助金事業での受託がない。この時期に会費減額案についても検討しているところであるが、具体的な案がうちだせていない。事務局経費の見直しで事務所の移転先の検討も行っている。また建築博物館構想と協業できないかという案もある。

(竺委員) 国立建築博物館構想は文化庁で進んでいる。すでに調査費がつき、シンクタンクで世界のアーカイヴのデータを調査し、報告をしている。報告書のデータからどのように日本の博物館構想につなげていくか、ということを検討しているところである。基本スタンスの設計はできているが、実施計画ができていない、という状況。建築学会のアーカイヴ小委員会で検討するということになるではないか。学会の建築博物館の資料も現在整理ができていないという状態であり、国立建築博物館ができた際にこの資料の整理を行うということも考えられる。先日、WBRプロジェクトでの打ち合わせを行った際に、目録のフォーマットについて各アーカイヴの情報交換を行い、ワールド基準を設定する必要があるということで検討を行った。統一規格が検討されれば、各アーカイヴとの連携が可能になる。グッティ美術館の資料をデジタル化したARTstor<sup>1</sup>は大学などの会費により運営している。ARTstorにDAASも協力し情報を提供するのであれば写真使用について「有償」で貸し出しも行えるのではないか。

## ■ 報告事項

### 表彰作品収蔵事業報告

○ 資料2に基づき、事務局より表彰作品収蔵事業の成果報告を行った。

### 卒業設計大賞報告

○ 資料3に基づき、事務局より卒業設計大賞受賞作品と懇親会開催の報告を行った。

---

<sup>1</sup>ARTstor-グッティ美術館とコロンビア大学図書館（エヴァリイ美術・建築図書館、同建築アーカイヴス）が協同で設立した機関。 ※添付カタログ参照